

1.

ジェンダー研究所 2024(令和 6) 年度 事業概要

ジェンダー研究所概要

2024 年度事業概要

▶ジェンダー研究所概要

学際的・先駆的なジェンダー研究と教育を推進する国際的な学術拠点

お茶の水女子大学ジェンダー研究所は、学際的かつ先駆的なジェンダー研究と若手研究者育成を推進する国際的な学術拠点である。その起源は、1975年にお茶の水女子大学に創設された「女性文化資料館」という研究機関である。ジェンダーやフェミニズムという言葉が一般的には全く知られていなかった時代から、歴代の所属研究者たちはジェンダー研究に取り組み、学内外・国内外の研究者らと積極的に研究交流を続けてきた。これら先人の研究者たちが培ってきたジェンダー研究の成果と国際的な学術ネットワークを礎に、現在、ジェンダー研究所では、高水準の国際的研究プロジェクトの実施、国際シンポジウム等の開催、若手研究者の育成、学術雑誌『ジェンダー研究』の編集・刊行、研究教育成果のグローバルな発信と社会還元を推進している。

[参照:本報告書 101 頁 資料⑦「国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則」]

ジェンダー研究所（Institute for Gender Studies (IGS)）の沿革と本学ジェンダー研究教育の動き

1875	東京女子師範学校（お茶の水女子大学の前身）開校
1949	お茶の水女子大学設立
1975	女性文化資料館設立
1986	女性文化研究センター設立
1993	大学院人間文化研究科博士後期課程人間発達学専攻「女性学講座」を創設
1996	ジェンダー研究センター（IGS）設立（国内大学初の「ジェンダー研究」を目的とする研究施設）
1997	大学院人間文化研究科博士前期課程発達社会科学専攻「開発・ジェンダー論コース」設置
1998	大学院人間文化研究科博士後期課程「女性学講座」を人間発達科学専攻「ジェンダー論講座」に改組
2003	21世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア（F-GENS）」採択
2004	国立大学法人 お茶の水女子大学設立
2005	大学院人間文化研究科博士後期課程「ジェンダー学際研究専攻」設置
2006	大学院人間文化研究科博士前期課程「ジェンダー社会科学専攻」設置
2007	大学院人間文化研究科を人間文化創成科学研究科に改組
2015	グローバル女性リーダー育成研究機構 ジェンダー研究所設立

►ジェンダー研究所 2024 年度事業概要

1. 研究プロジェクト

2024 年度は IGS 研究プロジェクトとして所属研究者それぞれが進めている共同研究・個人研究が 7 件、研究代表者または分担者として科研費を獲得しての研究プロジェクトが 8 件、そして海外の助成金によるプロジェクト 1 件の、計 16 件のプロジェクトが進められた。IGS 所属研究者らは、研究会やセミナー、国際シンポジウムを企画開催したほか、学会発表や論文投稿、書籍刊行、学術誌『ジェンダー研究』の編集刊行により成果発信にも努めた。[参照:本報告書 13 頁「研究プロジェクト」、57 頁「学術成果の発信」]

1) IGS 研究プロジェクト

	プロジェクト名	担当
1	「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究	申
2	東アジアにおけるエコロジーと生存のフェミニスト分析	大橋
3	資本と身体のジェンダー分析	大橋・足立・板井
4	性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析	嶽本
5	反公害／環境運動史におけるジェンダー／フェミニズム分析	嶽本
6	グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー	本山
7	文学・芸術文化表象とジェンダー	戸谷

2) 外部資金による研究プロジェクト

	財源	テーマなど	担当
1	科研費 挑戦的研究(萌芽)	課題番号:24K21404 ジェンダーパリティ議会の実態調査による日韓比較 (2024~2025 年度)	申
2	科研費基盤 B	課題番号:23H03654 フェミニズム理論による新たな国家論の構築:ケア概念と安全保障概念の再構想から[研究代表者:岡野八代(同志社大学)] (2023~2026 年度)	申 本山
3	科研費基盤 B	課題番号:23H00888 日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究[研究代表者:定松文(恵泉女学園大学)] (2023~2025 年度)	大橋 平野
4	科研費(国際共同研究強化 B)	課題番号:21KK0033 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー [研究代表者:堀口正(大阪公立大学)] (2021~2024 年度)	大橋
5	科研費基盤 C	課題番号:19K12603 香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析 (2019~2024 年度)	大橋
6	科研費基盤 C	課題番号:23K11676 「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域 (2023~2025 年度)	嶽本
7	科研費基盤 A	課題番号:24H00106 「奴隸制の想像力」:地中海型奴隸制度論の動態的検討[研究代表者:清水和裕(九州大学)] (2024~2027 年度)	嶽本
8	科研費若手研究	課題番号:23K17134 日本による親ジェンダー外交の展開:安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析 (2023~2027 年度)	本山

3) 海外の助成金によるプロジェクト

ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku の UTFORSK プロジェクト(戸谷)2021 年 8 月 ~2025 年 7 月

2. 国際シンポジウム等の開催

IGS 主催のシンポジウムやセミナーは、ジェンダー研究所所属研究者が、自身の研究成果と国際的な人脈を生かして企画しており、研究所の研究・教育事業と有機的に連携している。2024 年度には国際シンポジウム 1 件、国際ワークショップ 1 件、IGS セミナー 5 件、研究会 1 件を主催し、共催シンポジウム・セミナーを 3 件開催した。

7 月に開催した国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング：ポスト資本主義におけるフェミニズムの位相」では、資本主義と人間中心主義の限界を超えるような資源や財の共有、さらにその中にあるインターフェクショナルな関係性について、オランダおよび日本の研究者たちが討議を行った。また、IGS セミナー「沖縄における共有地とジェンダー：家父長制と軍事化の相関を問う」では、軍事基地として接収された共有地の使用料の事例を通じて、コモンズをめぐるジェンダー化された権力関係をさらに掘り下げた。これらの議論の内容は、『ジェンダー研究』第 28 号（2025 年 7 月刊行予定）に掲載される予定である。

2024 年度は中国のジェンダー研究者との学術交流も活発に行なった。中国女性史研究会と共に開催した国際シンポジウム『中国における農村・ジェンダー・モダニティ』では、近現代中国における政治経済秩序の変容と農村におけるリプロダクション、医療、家族、土地といった問題をめぐる分析を通して、フェミニスト・アプローチによる中国研究の蓄積と可能性を討議する貴重な機会となった。また国際ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー」では、中国による途上国開発援助および日本の安全保障政策におけるジェンダーの位置づけについて討論が行われた。

このほか、「台湾と日本におけるトランス・インクルーシブなキャンパスづくり」「メディアにおける『炎上』の構造と発信者としての私たち」「一緒に学ぼう！性的同意と第三者介入ワークショップ」など、よりよい学びの場とジェンダー公正な社会づくりという内外の関心に応え、学術的にも充実したセミナーを開催した。

[参照: 本報告書 21 頁 「国際シンポジウム・セミナー」]



国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング：ポスト資本主義におけるフェミニズムの位相(2024 年 7 月 31 日)」にて。佐藤千寿氏(ワーゲンブリッヒ大学)とウェンディ・ハーコート氏(エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学)。

●2024 年度 IGS 国際シンポジウム



フェミニズムとコモニング: ポスト資本主義におけるフェミニズムの位相
[本報告書 23 頁]



中国における農村・ジェンダー・モダニティ
[本報告書 26 頁]



国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ(2024 年 12 月 7 日)」。

● 2024 年度 IGS 主催・共催イベント

IGS セミナー		
台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり [本報告書 29 頁]	一緒に学ぼう！性的同意と第三者介入ワークショップ [本報告書 31 頁]	メディアにおける『炎上』の構造と発信者としての私たち [本報告書 33 頁]
IGS セミナー		
アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー [本報告書 35 頁]	国際社会と中国：フェミニスト的好奇心から振り返る [本報告書 37 頁]	沖縄における共有地とジェンダー：家父長制と軍事化の相関を問う [本報告書 39 頁]
IGS 研究会		
IGS 研究協力員研究報告会 [本報告書 41 頁]	日本フェミニスト経済学会 2024 年度大会 フェミニスト経済学とエコロジー：人間と環境のウェルビーイングを模索する [本報告書 43 頁]	国際ジェンダー学会 国際移動とジェンダー (IMAGE) 分科会 『在日フィリピン人社会』をジェンダーの視点から読む [本報告書 44 頁]

3. 国際研究ネットワーク

2024 年度には 7 月と 12 月に国際シンポジウムや国際ワークショップが開かれた。

2024 年 7 月 31 日には、IGS 国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング：ポスト資本主義におけるフェミニズムの位相」を開催した。ワーゲンゲン大学（オランダ）の佐藤千寿（Chizu Sato）氏と、エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学（オランダ）のウェンディ・ハーコート（Wendy Harcourt）氏が報告を行い、東京外国語大学の小田原琳氏、京都大学の岩島史氏、IGS の大橋史恵の 3 名がコメンテーターとして討議を行った。

2024 年 12 月 5 日には IGS 国際ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー：フェミニスト国際政治経済分析に向けて」を開催した。カリフォルニア大学アーバイン校／DAWN（Development Alternatives with Women for a New Era）の蔡一平（Cai Yiping）氏と、IGS の本山央子が報告を行い、同志社大学の秋林こずえ氏のコメントを受けてディスカッションを行った。続けて 7 日には国際シンポジウム「中国における農村・ジェンダー・モダニティ」を開催した。中国人民大学の宋少鵬（Song Shaopeng）氏による基調報告の後で、大阪公立大学の姚毅氏、東京大学の田原史起氏、宇都宮大学の李亜姫氏がそれぞれ報告を行い、上智大学のリンダ・グローブ（Linda Grove）氏がコメントを行った。これらのイベントの合間には、中国のフェミニスト研究者とのネットワーク形成の機会を広げる目的において非公開ワークショップも開かれ、留学生を含む大学院生たちが宋少鵬氏や蔡一平氏と議論を深めることができた。

このほか 2021 年度から大阪公立大学堀口正教授による国際共同研究プロジェクト「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」に大橋史恵が参加し、中国社会科学院や華東師範大学の研究協力者とともに共同研究に取り組んだ。

[参照: 本報告書 21 頁「国際シンポジウム・セミナー」、45 頁「国際研究ネットワーク」]

4. 若手研究者の育成

4. AIT ワークショップ、博士前期課程ジェンダー社会科学専攻・博士後期課程ジェンダー学際研究専攻の指導

IGS 所属の特任講師が担当する大学院科目「国際社会ジェンダー論」は IGS の国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」の一環であるが、これはタイにあるアジア工科大学院大学（Asia Institute of Technology、以下 AIT と表記）との短期交換研修プログラムの必修科目である。この研修プログラムとは、AIT から博士前期課程の院生が来日し、自らの研究テーマに沿ってフィールドワークを実施すると共にお茶大院生と研究交流を行う。お茶大からも博士前期課程の院生たちがタイに派遣され、フィールドワークや、AIT でのアジア各国の若手研究者らとの研究交流を行うほか、帰国してからの AIT ワークショップ・プログラムの報告会、報告書作成などに参加し、海外におけるフィールドワークの基礎を学ぶプログラムである。2024 年度は、お茶大からは 8 名の院生が参加し、貴重な学びの経験を得た。

また 2024 年度は所属教員指導のもと、博士前期課程の 3 名がジェンダー社会科学専攻を修了した。

[参照: 本報告書 51 頁「若手研究者の育成」]



AIT ワークショップ・プログラムで来日したタイのアジア工科大学院大学の院生による研修報告会。お茶の水女子大学大学院ゼミの一環として開催された。

5. 学術雑誌『ジェンダー研究』刊行と学術成果発信

国際的学術雑誌『ジェンダー研究』第 27 号（2024 年 7 月刊行）は「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」を特集した。本特集は、2023 年 12 月に開催した IGS 国際シンポジウムでの議論をもとにしている。特集論文として、Carol Harrington 氏（ニュージーランド、ヴィクトリア大学）の「Womenomics Theories of Sexual Violence: Governing Toxic Men」、工藤晴子氏（神戸大学）の「From Security Threat to Subject of Protection: Examining Global Sexuality Politics in the Refugee Protection Regime」、嶺崎寛子氏（成蹊大学）の「ジェンダー・オリエンタリズムと定義する権力：イスラエルとエジプトの事例をもとに」の 3 本を掲載した。投稿論文については厳正な審査を通過した 4 本を掲載した。また書評セクションでは、近年に刊行されたジェンダー・フェミニズム関連書籍の中から 19 冊を取り上げた。[参照:本報告書 57 頁「学術成果の発信」]



6. 文献収集・史料電子化、ウェブ発信、社会貢献

ジェンダー研究所では、出版社や著者から寄贈される図書の受け入れを行っている。また主催するシンポジウム・セミナーや『ジェンダー研究』の関連書籍の購入のほか、個人では購入しづらいジェンダー研究領域の歴史資料等の収集も進めている。たとえば本年度は、まとまった資料集としては『台湾愛国婦人〈明治編〉【復刻版】』、『戦前日本の社会事業・社会福祉資料第 6 期』を購入した。これらは図書館の本研究所書架等に置かれ、広く利用が可能になる。また同時に、ジェンダー研究所が設立から 50 年の間に行ってきた様々な事業の記録の電子化も進めており、本研究所のウェブサイトで閲覧が可能になるよう引き続き整理を進めていく予定である。

日本語版および英語版のウェブサイトによる情報発信は、本研究所が力を入れている事業の一つである。各イベントの事前案内に加え、「IGS 通信」というかたちでイベントの開催報告を発信しているほか、『ジェンダー研究』の最新号およびバックナンバーを公開し、ジェンダー研究の最先端の情報を、分かりやすく、国際的に発信している。さらにウェブサイトをより使いやすいものにするための作業を継続的に続けており、準備が整い次第、新ウェブサイトとして公開する予定である。[参照:本報告書 63 頁「文献収集公開・史料電子化・web 発信」、69 頁「社会貢献」]

7. 構成メンバー

教員を含む研究所の中核となるメンバーは前年度から変化がなかったが、そのうち申琪榮教授がサバティカルに入られた。スタッフにおいては、前年度に着任したアカデミック・アシスタントの花岡奈央氏が退任し、新たに許美善氏が着任した。許氏は花岡氏から業務を引き継ぎ、ウェブ関係の作業を中心に貢献してくれている。ほかに研究協力員として、英美由紀（藤女子大学）教授、および左高慎也氏（日本学術振興会特別研究員 PD）が加わり、セミナー・報告会等をとおして研究成果を発表した。[参照:本報告書 101 頁資料⑦「国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則」、74 頁資料①「構成メンバー」]